



R05.09.21 / 静岡理科大学  
ビジネス機会模索交流会「ヤングケアラー」

ふくろい産業  
イノベーション  
センター

# ふくろい産業イノベーションセンター ニュースレター Vol.20

発行日：令和5年10月6日（金）

発行者：ふくろい産業イノベーションセンター事務局

## ビジネス機会模索交流会「ヤングケアラー」 開催～若い感性や創造性から課題解決を目指す～

本センターでは、社会や地域が抱える課題解決を通じた新たなビジネス機会への発展可能性を模索するため、個別テーマごと、多様な主体が参加・交流する“機会”の提供に取り組んでいます。

今回は「ヤングケアラー～在宅介護等における負担軽減～」をテーマとして開催。静岡県内に立地する6大学の学生11人等が参加し、意見交換を行いました。

はじめに、「精神疾患の親をもつ25歳以下を支援する」NPO法人CoCoTELIの平井理事長から、自らの経験や現在の活動内容、ヤングケアラーの実態や傾向、必要な支援等についてお話いただきました。それを踏まえて、参加者全員で意見交換を実施。若者ならではの視点から率直な意見が多数出されるとともに、大学生同士の交流も図られるなど、有意義な時間となりました。

今回の内容・意見等を踏まえ、多様な主体が持つ様々な視点で課題を掘り下げるなど、引き続き解決策を模索して参ります。

# 話題提供／ヤングケアラー、在宅介護等について



NPO法人CoCoTELI 理事長 平井 登威さん

【NPO法人CoCoTELI HP】 <https://cocoteli.com/>



●CoCoTELIは、「精神疾患を持つ本人もその家族も生きやすい社会の実現」を目指し、精神疾患のある親を持つ子ども・若者への支援等に取り組んでいる。

●全世界で精神疾患のある親を持つ子どもの割合は全体の15~23%、その中でも、精神疾患のある親と生活している子ども自身が精神疾患を患う可能性は、平均より2.5倍も高いと言われており、身近かつ深刻な問題である。

●日本国内においても、そのようなたくさんの子どもたちが、親の介護・ケア等に対応せざるを得ない状況にあり、学業・人間関係・社会経験などの貴重な機会・権利を逸失している。そういった子どもたちへの支援やサポートは、虐待や貧困等で問題が表面化して初めて、手を差し伸べられることが多い。

●必要な支援やサポートを受けられるのも、「たまたま」「運」「偶然」といった不確定要素によるところが大きく、潜在的な要支援者層をサポートするための社会資源が乏しい状況である。

このような現状をより多くの人に知っていただくとともに、社会全体で支え合う仕組みの構築につなげていくため、引き続き、個別面談やオンラインコミュニティなど“つながる場”の運営、各種情報発信等の活動を展開していく。

## 意見交換／意見要旨



●精神疾患への偏見や理解の浅さから、当事者は周囲に助けを求めにくい状況があるのではないか。特に、「ヤングケアラー」に関する情報量は圧倒的に少ないことから、周囲の理解が十分得られない。社会全体に対して広く啓発していくことが必要ではないか。

●社会資源の分配や支援する社会福祉システムの構築は、「高齢者」が主な対象として進められているため、子どもや若者が抱える問題は埋没しやすいと思う。社会構造的な問題。

●自分の時間が取れないなど、余裕がない中で少しずつ追い詰められ正常な思考ができなくなり、助けの声を上げられなくなってしまう。「自分自身に原因がある」という方向に考えが向かってしまう。そのような状況下では、自身や家族、将来等への不安を抱えていても、それを相談できる環境に辿り着けない。

●ケアラーが負っている心の傷の深さはケアラー本人にしか分からない。一方で、介護することに生き甲斐を感じるケアラーもいる。求められる支援やサポートの方法は、個々で異なることから、相互理解を深めることができる、リアル、ヴァーチャルなど多様な「交流の場」の提供が重要。

## 出席した大学一覧 ※敬称略・順不同

静岡産業大学(2人)	静岡大学(2人)	静岡文化芸術大学(2人)
静岡福祉大学(2人)	聖隷クリストファー大学(1人)	静岡理工科大学(2人)

## お問い合わせ・相談窓口 ふくろい産業イノベーションセンター

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2(静岡理工科大学 やらまいか創造工学センター3階)  
TEL:0538-45-0136(直通) / FAX:0538-45-0110 / E-mail:shakai@sist.ac.jp